



ダイレクトアタッチドストレージ

- [ダイレクトアタッチドストレージ \(1 ページ\)](#)
- [ファイバチャネルスイッチングモード \(2 ページ\)](#)
- [ファイバチャネルスイッチングモードの設定 \(3 ページ\)](#)
- [ストレージVSANの作成 \(4 ページ\)](#)
- [ファイバチャネルゾーン分割用のVSANの作成 \(4 ページ\)](#)
- [ファイバチャネルストレージポートの設定 \(7 ページ\)](#)
- [ファイバチャネルゾーン分割の設定 \(8 ページ\)](#)

ダイレクトアタッチドストレージ

標準的なダイレクトアタッチドストレージ (DAS) システムは、データストレージデバイスで構成されています (たとえば、ラックに設置された多数のハードディスクドライブがホストバスアダプタ (HBA) を介してコンピュータに直接接続されています)。これら 2 つのポート間にはネットワークデバイス (スイッチやルータなど) がありません。

DAS 接続に使用される主要なプロトコルは、ATA、SATA、eSATA、SCSI、SAS、USB、USB 3.0、IEEE 1394、およびファイバチャネルです。

Cisco UCS Manager では、SAN スイッチでゾーン分割設定をプッシュしなくても DAS を使用できます。

ここで説明されている DAS の構成では、ストレージアレイポートとファブリックインターコネクタの間に物理ケーブルが接続済みであることが想定されています。

Cisco UCS 6400 シリーズファブリックインターコネクタは、フィルパターンが IDLE に設定されていない 8 Gbps 直接接続 FC 接続 (FC アップリンクポートまたは FC ストレージポート) をサポートしません。次のいずれかを実行して、Cisco UCS 6200 シリーズファブリックインターコネクタから Cisco UCS 6400 シリーズファブリックインターコネクタに移行できます。

- 6400 シリーズファブリックインターコネクタと 8 GB FC 接続のストレージアレイの間に SAN スイッチを使用します。
- ストレージアレイを 16 GB または 32 GB FC 接続にアップグレードします。

ファイバチャネルスイッチングモード

ファイバチャネルスイッチングモードは、サーバとストレージデバイス間のスイッチング装置としてファブリックインターコネクタがどのように動作するかを決定します。ファブリックインターコネクタは、次のファイバチャネルスイッチングモードのいずれかで動作します。

エンドホストモード

エンドホストモードを使用すると、ファブリックインターコネクタは、仮想ホストバスアダプタ (vHBA) を介して接続されているすべてのサーバ (ホスト) に代わって、接続されているファイバチャネルネットワークに対するエンドホストとして動作することができます。この動作は、vHBA をファイバチャネルポートアダプタにピン接続することにより実現されます (動的なピン接続または固定のピン接続のいずれか)。これにより、ファイバチャネルポートはファブリックの残りの部分に対してサーバポート (Nポート) となります。エンドホストモードの場合、ファブリックインターコネクタは、アップリンクポートがトラフィックを相互に転送するのを拒否することでループを回避します。

エンドホストモードはNポート仮想化 (NPV) モードと同義です。このモードは、デフォルトのファイバチャネルスイッチングモードです。



- (注) エンドホストモードを有効にした場合、vHBA がアップリンクファイバチャネルポートに固定ピン接続されていて、このアップリンクポートがダウンすると、システムはそのvHBAをピン接続し直すことはできず、そのvHBAはダウンしたままになります。

Switch Mode

スイッチモードは従来のファイバチャネルスイッチングモードです。スイッチモードを使用して、ファブリックインターコネクタをストレージデバイスに直接接続することができます。ファイバチャネルスイッチモードの有効化は、SANが存在しない (たとえば、ストレージに直接接続された1つのCisco UCSドメイン) ポッドモデル、またはSANが存在する (アップストリームMDSを使用) ポッドモデルで役に立ちます。

スイッチモードはデフォルトのファイバチャネルスイッチングモードではありません。



- (注) ファイバチャネルスイッチモードでは、SANピングループは不適切です。既存のSANピングループはすべて無視されます。

ファイバチャネルスイッチングモードの設定



重要 ファイバチャネルスイッチングモードを変更すると、Cisco UCS Managerによりログアウトされ、ファブリックインターコネク트가再起動されます。クラスタ設定の場合、Cisco UCS Manager リリース 3.1(1) 以前のリリースでは、Cisco UCS Managerにより両方のファブリック インターコネク트가同時に再起動されます。Cisco UCS Manager リリース 3.1 (2) では、ファイバチャネルスイッチングモードを変更すると、UCS ファブリック インターコネク트가順次リロードします。Cisco UCS Manager リリース 3.1(3) では、スイッチングモードを変更した結果として、従属ファブリック インターコネク트가初めて再起動されます。プライマリ ファブリック インターコネク트는、[Pending Activities] で確認された後にのみ再起動します。プライマリ ファブリック インターコネク트가ファイバチャネルスイッチングモードに変更され、システムが使用できるようになるまでには数分間かかります。



(注) ファブリック インターコネク트가リロードすると、約 10～15 分のダウンタイムがシステム全体で発生します。

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Fabric Interconnects] > [Fabric *Interconnect Name*] の順に展開します。

ステップ 3 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

ステップ 4 [General] タブの [Actions] 領域で、次のリンクのいずれかをクリックします。

- [Set Fibre Channel Switching Mode]
- [Set Fibre Channel End-Host Mode]

現在のモードのリンクはグレー表示されます。

ステップ 5 ダイアログボックスで、[Yes] をクリックします。

Cisco UCS Manager はファブリック インターコネク트를再起動し、ユーザをログアウトし、Cisco UCS Manager GUI との接続を解除します。

ストレージ VSAN の作成



(注) SAN クラウドの FCoE VLAN と LAN クラウドの VLAN の ID は違っている必要があります。VSAN 内の FCoE VLAN と VLAN で同じ ID を使用すると、その FCoE VLAN を使用しているすべての vNIC とアップリンク ポートで重大な障害が発生し、トラフィックが中断されます。FCoE VLAN ID と重なる ID が設定されたすべての VLAN 上でイーサネットトラフィックがドロップされます。

ステップ 1 [Navigation] ペインで [SAN] をクリックします。

ステップ 2 [SAN] タブで、[SAN] > [Storage Cloud] を展開します。

ステップ 3 [Work] ペインで、[VSANs] タブをクリックします。

ステップ 4 テーブルの右側のアイコンバーの [+] をクリックします。

[+] アイコンがディセーブルの場合、テーブルのエントリをクリックして、イネーブルにします。

ステップ 5 [Create VSAN] ダイアログボックスで、必須フィールドに値を入力します。

ステップ 6 [OK] をクリックします。

Cisco UCS Manager GUI で、次の [VSANs] ノードの 1 つに VSAN が追加されます。

- 両方のファブリック インターコネクต์にアクセス可能なストレージ VSAN の場合は、[Storage Cloud] > [VSANs] ノード
- 1 つのファブリック インターコネクต์のみにアクセス可能な VSAN の場合は、[Storage Cloud] > [Fabric_Name] > [VSANs] ノード

ファイバチャネル ゾーン分割用の VSAN の作成



(注) SAN クラウドの FCoE VLAN と LAN クラウドの VLAN の ID は違っている必要があります。VSAN 内の FCoE VLAN と VLAN で同じ ID を使用すると、その FCoE VLAN を使用しているすべての vNIC とアップリンク ポートで重大な障害が発生し、トラフィックが中断されます。FCoE VLAN ID と重なる ID が設定されたすべての VLAN 上でイーサネットトラフィックがドロップされます。

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [SAN] をクリックします。

2. [SAN] タブの [SAN] ノードをクリックします。
3. [Work] ペインの [SAN Uplinks] タブの [SAN Uplinks Manager] リンクをクリックします。
4. [SAN Uplinks Manager] で [VSAN] タブをクリックします。
5. テーブルの右側のアイコンバーの [+] をクリックします。
6. [Create VSAN] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。
7. [OK] をクリックします。

手順の詳細

ステップ 1 [Navigation] ペインで [SAN] をクリックします。

ステップ 2 [SAN] タブの [SAN] ノードをクリックします。

ステップ 3 [Work] ペインの [SAN Uplinks] タブの [SAN Uplinks Manager] リンクをクリックします。

別のウィンドウに [SAN Uplinks Manager] が開きます。

ステップ 4 [SAN Uplinks Manager] で [VSAN] タブをクリックします。

VSAN は、どのサブタブでも作成できます。ただし、[All] サブタブを使用すれば、設定済みのすべての VSAN をテーブルに表示できます。

ステップ 5 テーブルの右側のアイコンバーの [+] をクリックします。

[+] アイコンがディセーブルの場合、テーブルのエントリをクリックして、イネーブルにします。

ステップ 6 [Create VSAN] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[Name] フィールド	ネットワークに割り当てられている名前。 この名前には、1～32文字の英数字を使用できます。- (ハイフン)、_ (アンダースコア)、: (コロン)、および (ピリオド) は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後にこの名前を変更することはできません。

名前	説明
<p>[FC Zoning] フィールド</p>	<p>Cisco UCS Manager が Cisco UCS ドメインに対してファイバチャネルゾーン分割を設定するかどうかを決定するためのオプションボタンをクリックします。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Disabled] : アップストリームスイッチがファイバチャネルゾーン分割を処理します。またはファイバチャネルゾーン分割は、Cisco UCS ドメインに対して実行されません。Cisco UCS Manager はファイバチャネルゾーニングを設定しません。 • [Enabled] : Cisco UCS Manager がファイバチャネルゾーン分割を設定し、制御します Cisco UCS ドメイン。 <p>(注) Cisco UCS Managerを介してファイバチャネルゾーン分割をイネーブルにする場合は、ファイバチャネルゾーン分割に使用されている VSAN でアップストリームスイッチを設定しないでください。</p>
<p>[Type] オプション ボタン</p>	<p>オプションボタンをクリックして、VSAN の設定方法を決定します。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Common/Global] : VSAN は、すべての使用可能なファブリック内で同じ VSAN ID にマッピングされます。 • [Fabric A] : VSAN は、ファブリック A にだけ存在する VSAN ID にマッピングされます。 • [Fabric B] : VSAN は、ファブリック B にだけ存在する VSAN ID にマッピングされます。 • [Both Fabrics Configured Differently] : VSAN は、使用可能なファブリックごとに異なる VSAN ID にマッピングされます。このオプションを選択すると、Cisco UCS Manager GUI に、各ファブリックの[VSAN ID] フィールドと [FCoE VLAN] フィールドが表示されます。
<p>[VSAN ID] フィールド</p>	<p>ネットワークに割り当てられている固有識別情報。</p> <p>ID は、1 ~ 4078 または 4080 ~ 4093 の間で設定できます。4079 は予約済み VSAN ID です。また、FC エンドホストモードを使用する場合は、3840 ~ 4079 も予約済みの VSAN ID 範囲です。</p>

名前	説明
[FCoE VLAN] フィールド	<p>ファイバチャネル接続に使用される VLAN に割り当てられた固有識別情報。</p> <p>VLAN 4048 はユーザが設定可能です。ただし、Cisco UCS Manager では、VLAN 4048 が次のデフォルト値に使用されます。4048 を VLAN に割り当てる場合は、これらの値を再設定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco UCS リリース 2.0 へのアップグレード後：FCoE ストレージポートのネイティブ VLAN は、デフォルトで VLAN 4048 を使用します。デフォルト FCoE VSAN が、アップグレード前に VLAN 1 を使用するように設定されていた場合は、使用または予約されていない VLAN ID に変更する必要があります。たとえば、デフォルトを 4049 に変更することを検討します（その VLAN ID が使用されていない場合）。 • Cisco UCS リリース 2.0 の新規インストール後：デフォルト VSAN 用の FCoE VLAN は、デフォルトで VLAN 4048 を使用します。FCoE ストレージポート ネイティブ VLAN は VLAN 4049 を使用します。 <p>Cisco UCS CNA M72KR-Q や Cisco UCS CNA M72KR-E などの FIP 対応統合型ネットワークアダプタの場合は、FCoE VLAN ID のネイティブ VLAN ではないネームド VLAN を使ってネームド VSAN を設定する必要があります。この設定により、FCoE トラフィックが確実にこれらのアダプタを通過できるようになります。</p>

ステップ 7 [OK] をクリックします。

ファイバチャネルストレージポートの設定

このタスクでは、FC ストレージポートの設定方法を 1 種類だけ説明します。そのポートの [General] タブから FC ストレージポートを設定することもできます。

始める前に

これらのポートが有効になるためには、ファイバチャネルスイッチングモードが [Switching] に設定されている必要があります。ストレージポートは、エンドホストモードでは動作しません。

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Fabric Interconnects] > [Fabric_Interconnect_Name] の順に展開します。

ステップ 3 [Expansion Module] ノードを展開します。

ステップ4 [FC Ports] ノード以下の1つ以上のポートをクリックします。

ステップ5 選択したポートを右クリックし、[Configure as FC Storage Port] を選択します。

ステップ6 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

ステップ7 [OK] をクリックします。

ファイバチャネルゾーン分割の設定



(注) この手順は、Cisco UCS Managerにより制御されるファイバチャネルゾーン分割に対し Cisco UCS ドメインを設定するのに必要な手順の概要を示します。次のすべてのステップを完了する必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	まだ完了していない場合は、Cisco UCS ドメイン内のファブリック インターコネクットの接続を、外付けファイバチャネルスイッチ (MDS など) から切り離してください。	
ステップ2	Cisco UCS ドメインにまだ外部ファイバチャネルスイッチによって管理されたゾーンが含まれる場合は、これらのゾーンを削除するために、影響を受けたすべての VSAN で clear-unmanaged-fc-zone-all コマンドを実行します。	この機能は現在、Cisco UCS Manager GUI では使用できません。このステップは、Cisco UCS Manager CLI で実行する必要があります。
ステップ3	ファイバチャネルスイッチモードの両方のファブリック インターコネクでファイバチャネルスイッチングモードを設定します。	エンドホストモードではファイバチャネルゾーン分割を設定できません。 ファイバチャネルスイッチングモードの設定 (3 ページ) を参照してください。
ステップ4	ファイバチャネルゾーンのトラフィック転送に必要なファイバチャネルと FCoE ストレージポートを設定します。	イーサネットポートのFCoEストレージポートとしての設定 および ファイバチャネルストレージポートの設定 を参照してください。
ステップ5	1つ以上の VSAN を作成し、ファイバチャネルゾーンのトラフィック転送に必要なすべての VSAN で、ファイバチャネルのゾーン分割を有効にします。	クラスタ設定では、SAN Uplinks Manager のファイバチャネルゾーンに組み込んで、共通/グローバル設定を使用して両方のファブリック インターコネクにアクセスできるように VSAN を作成することをお勧めします。 ファイバチャネルゾーン分割用の VSAN の作成 を参照してください。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	1 つ以上のファイバチャネルストレージ接続ポリシーを作成します。	必要に応じて、この手順を実行してサービスプロファイルにファイバチャネルゾーン分割を設定することができます。 ファイバチャネルゾーン分割用の VSAN の作成 を参照してください。
ステップ 7	ファイバチャネルゾーン経由で通信する必要があるサーバに対してサービスプロファイルまたはサービスプロファイルテンプレートにゾーン分割を設定します。	この設定を完了するには、次の手順を完了します。 <ul style="list-style-type: none"> • vHBA に割り当てられた VSAN（複数の場合あり）のゾーン分割を有効にします。ファイバチャネルゾーン分割用の VSAN の作成を参照してください。 • 1 つ以上の vHBA イニシエータグループを設定します。[Expert] ウィザードを使用したサービスプロファイルの作成（11 ページ）を参照してください。

ファイバチャネルストレージ接続ポリシーの作成

ステップ 1 [Navigation] ペインで [SAN] をクリックします。

ステップ 2 [SAN] > [Policies] の順に展開します。

ステップ 3 ポリシーを作成する組織のノードを展開します。

システムにマルチテナント機能が備えられていない場合は、[root] ノードを展開します。

ステップ 4 [Storage Connection Policies] ノードを右クリックし、[Create Storage Connection Policy] を選択します。

ステップ 5 [Create Storage Connection Policy] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[Name] フィールド	<p>ポリシーの名前。</p> <p>この名前には、1 ～ 16 文字の英数字を使用できます。 - (ハイフン)、_ (アンダースコア)、: (コロン)、および (ピリオド) は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後にこの名前を変更することはできません。</p>

名前	説明
[Description] フィールド	<p>ポリシーの説明。ポリシーを使用する場所とタイミングについての情報を含めることを推奨します。</p> <p>256文字以下で入力します。任意の文字またはスペースを使用できます。ただし、`（アクセント記号）、\（バックスラッシュ）、^（キャラット）、"（二重引用符）、=（等号）、>（大なり）、<（小なり）、または'（一重引用符）は使用できません。</p>

ステップ6 [Zoning Type] フィールドで、次のオプション ボタンのいずれかをクリックします。

- [None]:Cisco UCS Manager ファイバチャネルゾーニングは設定されていません。
- [Single Initiator Single Target] : Cisco UCS Manager は、vHBA とストレージポートのペアごとに、ゾーンを1つ自動的に作成します。各ゾーンには2つのメンバが含まれます。ゾーンの数がサポートされている最大値を超えると予想される場合を除いて、このタイプのゾーン分割を設定することを推奨します。
- [Single Initiator Multiple Targets] : Cisco UCS Manager は、vHBA ごとにゾーンを1つ自動的に作成します。ゾーンの数がサポートされている最大値に到達またはそれを超えると予想される場合は、このタイプのゾーン分割を設定することを推奨します。

ステップ7 [FC Target Endpoints] テーブルで、テーブルの右側にあるアイコンバーで[+]をクリックします。

[+]アイコンがディセーブルの場合、テーブルのエントリをクリックして、イネーブルにします。

ステップ8 [Create FC Target Endpoint] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力し、[OK]をクリックします。

名前	説明
[WWPN] フィールド	<p>ファイバチャネルまたはFCoE ストレージアレイ上の物理ターゲットポートに割り当てられた WWPN (WWN) です。サーバは、この WWPN (WWN) を使用して、ストレージアレイに設定された LUN にアクセスします。</p>
[Description] フィールド	<p>ターゲットエンドポイントの説明。ターゲットエンドポイントが接続するポート、LUN、またはストレージアレイに関する情報を含めることを推奨します。</p> <p>256文字以下で入力します。任意の文字またはスペースを使用できます。ただし、`（アクセント記号）、\（バックスラッシュ）、^（キャラット）、"（二重引用符）、=（等号）、>（大なり）、<（小なり）、または'（一重引用符）は使用できません。</p>
[Path] フィールド	<p>ターゲットエンドポイントとの通信に使用するファブリックインターコネクト。</p>

名前	説明
[Select VSAN] ドロップダウンリスト	ターゲット エンドポイントとの通信に使用する VSAN。
[Create VSAN] リンク	VSAN を作成する場合は、このリンクをクリックします。

ポリシーの対象となるすべてのターゲット エンドポイントを作成するまでこの手順を繰り返します。

ステップ 9 ポリシーの対象となるすべてのターゲット エンドポイントを作成したら、[OK] をクリックします。

[Expert] ウィザードを使用したサービス プロファイルの作成

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Servers] をクリックします。

ステップ 2 [Servers] > [Service Profiles] の順に展開します。

ステップ 3 サービス プロファイルを作成する組織のノードを展開します。

システムにマルチテナント機能が備えられていない場合は、[root] ノードを展開します。

ステップ 4 組織を右クリックし、[Create Service Profile (expert)] を選択します。

ステップ 5 [Identify Service Profile] パネルで、サービス プロファイルの [Name]、[UUID assignment] を指定して、[Next] をクリックします。

任意で、このサービス プロファイルの説明を設定できます。UUID が使用できない場合、このパネルから UUID サフィックス プールを作成することもできます。

Note サービス プロファイルをすばやく作成するには、名前を指定した後に **[Finish]** をクリックします。Cisco UCS Manager は、指定された名前とすべてのシステム デフォルト値を使用して新しいサービス プロファイルを作成します。

ステップ 6 (オプション) [Networking] パネルで、[Dynamic vNIC Connection Policy] と [LAN Connectivity] のセクションに必要な情報を指定して、[Next] をクリックします。

このパネルからダイナミック vNIC 接続ポリシーおよび LAN 接続ポリシーを作成できます。

ステップ 7 (オプション) [Storage] パネルで、[Local Storage Policy]、[SAN Connectivity]、[WWNN]、[VSAN] などの、SAN 構成情報を指定して、[Next] をクリックします。

このパネルからローカルディスク設定ポリシーおよび SAN 接続ポリシーを作成できます。

ステップ 8 (任意) [Zoning] パネルで、必要なゾーン分割情報を指定して [Next] をクリックします。

このパネルから vHBA イニシエータ グループを作成できます。

ステップ 9 (オプション)[vNIC/vHBA Placement (vNIC/vHBA 配置)]パネルで、配置方法と PCI 順序を指定して **[Next (次へ)]** をクリックします。

このパネルから配置ポリシーを作成できます。

- ステップ 10** (オプション) [Server Boot Order] パネルで、ドロップダウン リストから [Boot Policy] を指定して [Next] をクリックします。
このパネルからブート ポリシーを作成できます。
- ステップ 11** (任意) [Maintenance Policy] パネルで、メンテナンス ポリシーを指定して [Next] をクリックします。
このパネルから、新しいメンテナンス ポリシーを作成してメンテナンス スケジュールを指定できます。
- ステップ 12** (オプション) [Server Assignment] パネルで、[Server Assignment] をドロップダウン リストから選択して指定し、サーバ割り当てに適用する電源状態を指定して [Next] をクリックします。
このパネルからサーバ プールまたはホスト ファームウェア パッケージを作成できます。
- ステップ 13** (オプション) [Operational Policies] パネルで、[BIOS Configuration]、[External IPMI Management Configuration]、[Management IP Address]、[Monitoring Configuration(Thresholds)]、[Power Control Policy Configuration]、[Scrub Policy] などのシステムの動作情報を指定して [Finish] をクリックします。
- Note** アウトバンド IPv4 アドレス、またはインバンド IPv4 または IPv6 アドレスをセットアップするには、それぞれのタブをクリックして、必須フィールドに入力します。
これらの各設定に必要なポリシーが見つからない場合は、このパネルで作成できます。

サービス プロファイルとサーバまたはサーバ プールの関連付け

作成時にサービス プロファイルとブレードサーバまたはサーバ プールを関連付けなかった場合、またはサービス プロファイルを関連付けるブレードサーバまたはサーバ プールを変更する場合には、次の手順を実行します。

- ステップ 1** [Navigation] ペインで [Servers] をクリックします。
- ステップ 2** [Servers] > [Service Profiles] の順に展開します。
- ステップ 3** 新しいサーバまたはサーバ プールに関連付けるサービス プロファイルが含まれている組織のノードを展開します。
システムにマルチテナント機能が備えられていない場合は、[root] ノードを展開します。
- ステップ 4** サーバに関連付けるサービス プロファイルを右クリックし、[Associate Service Profile] を選択します。
- ステップ 5** [Associate Service Profile] ダイアログボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。

オプション	説明
サーバ プール	ドロップダウン リストからサーバ プールを選択します。Cisco UCS Managerは、このプールから取得したサーバをサービス プロファイルに割り当てます。 ステップ 7 に進みます。
[サーバ (Server)]	ナビゲーション ツリーで適切な使用可能サーバに移動し、サービス プロファイルに割り当てるサーバを選択します。

オプション	説明
	ステップ7に進みます。
[Custom Server]	サービスプロファイルに割り当てられるサーバが含まれるシャーシおよびスロットを指定します。サーバがスロット内に存在しない場合、またはそれ以外の理由で使用できない場合、サービスプロファイルは、サーバが使用できるようになったらサーバに関連付けられます。 ステップ6に進みます。

ステップ6 [Custom Server] を選択した場合は、次の手順を実行します。

- a) [Chassis Id] フィールドに、選択したサーバが配置されるシャーシの番号を入力します。
- b) [Server Id] フィールドで、選択したサーバが配置されているスロットの番号を入力します。

ステップ7 サーバに関連付けられた後にサービスプロファイルの移行を制限する場合は、[Restrict Migration] チェックボックスをオンにします。

移行を制限しない場合、既存のサービスプロファイルを移行する前に、Cisco UCS Manager による新規サーバの互換性チェックは実行されません。両方のハードウェアが似ていない場合、関連付けが失敗することがあります。

ステップ8 [OK] をクリックします。

ファイバチャネル ゾーン分割設定の確認

ゾーン設定およびゾーンセットのアクティブ化が正しく機能することを確認します。

ステップ1 [Navigation] ペインの [Servers] タブをクリックします。

ステップ2 [Servers] タブの [Servers] > [Service Profiles] を展開します。

ステップ3 以前に作成したサービスプロファイルに移動してクリックします。

ステップ4 右側のペインで [FC Zones] タブをクリックします。

以下を確認します。

- イニシエータおよびターゲットの WWPN が同じゾーンにあります。
- ゾーンの [Admin State] が [Applied] になっています。
- [Oper State] が [Active] になっています。

(注) UCS Manager はゾーン名を自動的に作成します。ゾーンの命名規則は ClusterName_FabricID_ZoneID_ServiceProfileName_InitiatorName です。

ファイバチャネルゾーン分割設定のトラブルシューティング

サービスプロファイルを作成しても、[FCZones] タブにゾーンが表示されない場合は、このトラブルシューティング チェックリストを使用してください。

- 対象の VSAN でゾーン分割がイネーブルになっていますか。
- サービス プロファイルは関連付けられていますか。
ゾーンは、サービス プロファイルがサーバに関連付けられている場合にのみ作成され
ます。
- vHBA イニシエータ グループで正しいストレージ接続ポリシーが選択されていますか。
- 正しい vHBA が正しい vHBA イニシエータ グループに追加されていますか。
- vHBA で正しい VSAN が選択されていますか。
- ストレージ接続ポリシーで正しい VSAN およびファブリックが選択されていますか。